

# 第五回留学報告書

2020年12月

山口光史郎

University of Washington, Aeronautics & Astronautics

ワシントン大学航空宇宙工学科博士課程の山口光史郎です。ついに留学生活も三年目に入りました。この報告書では、前回夏の報告書から今までについての報告をさせていただきます。

## 1. 授業

2020年秋学期に授業を1つ受講しました。

- ENGL 105: English for International TA

留学生がTA資格を得るための授業です。学期中様々なトピックについて学生が模擬授業のようなプレゼンテーションを行い、それに対して教授や他の学生がフィードバックして改善していくというプロセスでした。最終試験は英語の教授3名に対して模擬授業を行い、そのパフォーマンスでPass/Failが別れるというものでした。なんとか最終試験に合格し授業をPassできたので、自分もTAを行うことができるようになりました。現時点では2021年秋から2,3クォーターほどTAを行う予定です。

## 2. 研究

以下の論文が掲載されました。

1. **K. Yamaguchi**, S. Phenisee, Z. Chen, M. Salviato, J. Yang, “Ply-drop design of non-conventional laminated composites using Bayesian optimization”, *Composites Part A*, 139: 106136, 2020.
2. H. Yasuda, **K. Yamaguchi**, Y. Miyazawa, R. Wiebe, J. Raney, J. Yang, “Data-driven prediction and analysis for chaotic origami dynamics”, *Nature Communications Physics*, 3:168, 2020.

以下の論文を投稿しました。

1. H. Yasuda, K. Johnson, V. Arroyos, **K. Yamaguchi**, J. Raney, J. Yang, “Leaf-like origami with bistability for self-adaptive grasping motions”, <https://arxiv.org/abs/2011.01428>

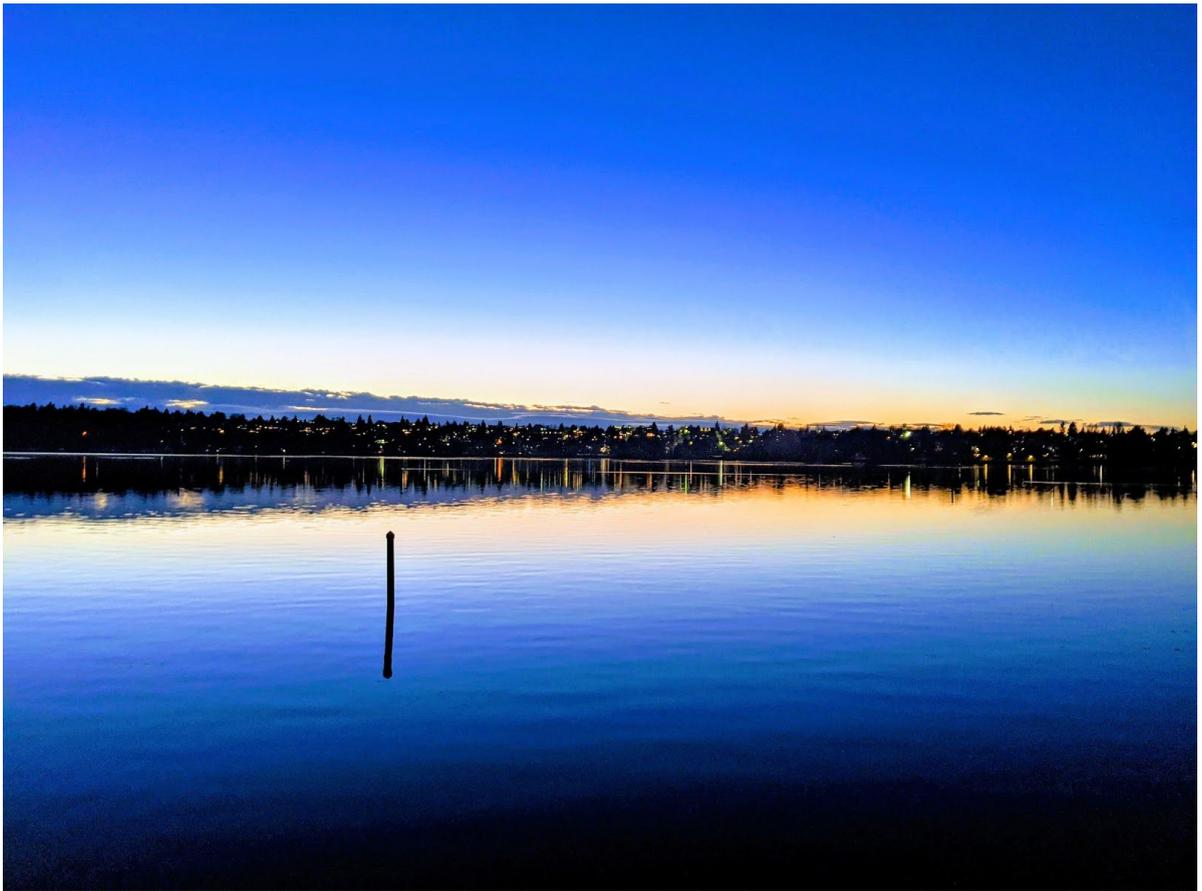
3月から引き続き自宅で研究を行っています。入学後授業の合間に進めていたプロジェクトを主著、共著共に投稿、出版と進めることができました。Qualを終え、指導教官とのディスカッションから博士論文の方向性もおぼろげながら定まってきたので、現在はそのトピックに向けて研究をしています。学科のオフィスや実験室へのアクセスの手順も夏頃には定まっていました。手順は多少煩雑ですが、特に制限なく実験が行えるようになったのは嬉しいです。

## 3. おわりに

この状況下でも船井財団の支援のおかげで学業と研究に集中することができ、実りのある生活を送っております。感謝申し上げます。



Lake 22山頂付近から



Green lakeから